

消費者へのアドバイス

1 絶対に乳幼児や子どもが使用できないようにしましょう

乳幼児がいる家庭などでは、シュレッダーを使用する際には周囲に子どもが近づかないようにするとともに、子ども、特に乳幼児には絶対に使わせないことにしましょう。また、使い終わったら主電源を切るだけでなくコンセントからプラグを抜いたり、子どもが近づけない場所にシュレッダーを保管するなど、保護者は十分に注意しましょう。



2 安全対策されたものもあるので、

特に乳幼児がいる家庭では購入の際は参考にしましょう

乳幼児や子どもが通常いないところに設置する場合でも誰が使うのか予測できないので、購入するときは投入口の幅、細断部までの距離などを確認し危険性のない商品を選びましょう。また、今回テストした銘柄の中には、電源スイッチが容易に入らないように工夫されている銘柄や、投入口に触れると運転停止する銘柄、投入口にふたがある銘柄など、安全対策がなされたものがあつたので購入の際の参考にしましょう。



3 ネクタイや髪の毛などを投入口に近づけないように注意しましょう

子どもに限らず、ネクタイや髪の毛、ゆるい上着や長いネックレスなどが引き込まれた場合、細断部の引き込み力が大きく危険な状態になるので、使用する際には身に着けているものが投入口に触れないように注意しましょう。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページの「報道発表資料」コーナーに掲載しています。

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20060915_1.html

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1793 ●2006年11月発行

デザイン=花村デザイン事務所
イラスト=ヒラヤマ ミワ

くらしの危険 Number 275

指を切断することもあるシュレッダー

近年、個人情報保護への関心の高まりなどから家庭でも使われる紙用シュレッダー(以下シュレッダー)が大型電機店やホームセンターなどでも販売されています。

このように身近な生活用品になりつつある

シュレッダーですが、子どもが事故に巻き込まれるケースが見受けられます。



シュレッダーによる事故

国民生活センターと全国の消費生活センターをオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積している全国消費生活情報ネットワーク・システム(PIO-NET)には「2歳8ヶ月の女兒が、シュレッダー

に手の指を挟んで9本切断した」などシュレッダーによる子どもの重篤な事故が寄せられています。



こんな事故が起きています

ケース1 自宅兼事務所に設置していたシュレッダーに
2歳8ヶ月の女児が手の指を挟んで9本切断した。
(事故発生年月 2006年3月)

ケース2 家のシュレッダーは5枚ぐらいの紙を縦方向に細断するものだが、
11歳の女児が人さし指と中指が引き込まれて、
第1関節がつぶれて爪の先半分がなくなった。
ストップ機能などが付いていてもいいのではないか。
(事故発生年月 2006年1月)

ケース3 金融会社の店内で3歳の女児が誤って
シュレッダーに指を入れ爪の部分が切れた。
(事故発生年月 2002年9月)

ケース4 勤務先のシュレッダーで2歳の女児が紙と一緒に手も入れ、
人さし指と中指の第1関節から先を切断した。
1週間入院した。(事故発生年月 1997年5月)

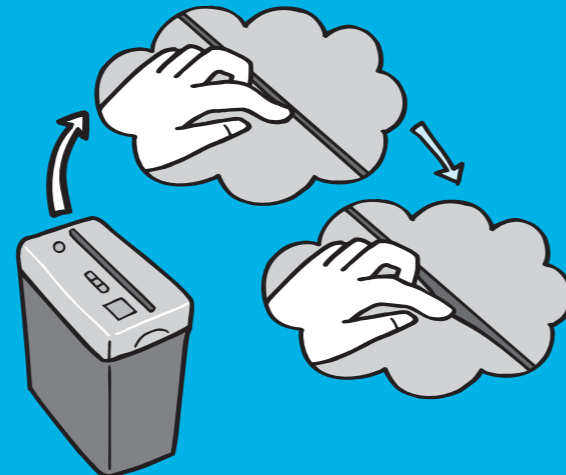


シュレッダーの安全性にかかわるテストをしました



国民生活センターでは、2006年8月～9月にかけて、
大型電機店やホームセンターなどで販売され、
家庭で使用される可能性のある電動式のシュレッダーの中から、
紙の細断枚数や細断方式の違いなどを考慮して、床置きタイプ13銘柄、
テーブルや机などの上に置いて使用するポータブルタイプ
3銘柄の10社16銘柄について安全性にかかわるテストを行いました

- 乳幼児の模擬指が投入口に引き込まれ、切断されるものが16銘柄中7銘柄ありました
- 投入口が容易に変形し広がるものがありました



- 紙の引き込み力は銘柄間で差があるものの強く^(注)、乳幼児が紙をつかんだまま引き込まれると重篤な事故となる危険性がありました

(注) ポータブルタイプの2銘柄を除く

- 紙詰まりなどが発生したときに使用する逆転スイッチは全銘柄に装備されていましたが、万一のときの緊急停止スイッチを装備しているものはありませんでした

- 電源が容易に入らないよう対策がなされた銘柄や、投入口にふたがある銘柄、細断中に投入口の縁に手や指が触れると運転を停止する銘柄など、安全対策がなされた銘柄もみられました

●このテストの詳細は、(独)国民生活センターホームページ報道発表資料「シュレッダーの安全性にかかわる情報—指切断などの事故を防ぐために—」でみることができます。また、「たしかな日」2006年11月号では、わかりやすく銘柄写真付でこのテスト結果を紹介しています。